



うちどく（家読）で読みニケーション ～家族で本を読み、読んだ本で話す「うちどく」のすすめ～

コンセプト

「うちどく(家読)」は読書を通して家族のコミュニケーションを図ろうという試みです。

学校で毎朝実施されている「朝の読書」の広がりによって、子どもの読書量は増加傾向にあります。そこで、子どもたちの読書の習慣を家庭にも広げ、家族で感想を話し合ったり、本をすすめあうことで、家族のコミュニケーションを深められたら、そんな思いから2006年12月に「うちどく」の推進をスタートしました。



また、昨今の子どもたちの体力・学力の低下は、夜更かしや朝食抜きなど生活リズムの乱れが要因と言われています。そんな中、学校での「朝の読書」は集中して授業に入れるなど生活リズムの向上に寄与しています。「うちどく」はこうした読書の効用を家庭にも取り入れ、読書体験を家族で共有することで、生活リズムの向上にもつながる活動として、国民運動「早ね早おき朝ごはん」(*)の趣旨にも沿った活動です。



読書は個人的な体験ですが、感想を話し合ったり、人にすすめたりして言葉にすることで、コミュニケーション能力や読解力、表現力を高めることにもつながります。「うちどく」は、子どもも大人も一緒に成長し心の豊かさを育む活動でもあるのです。

※トーハンは「早ね早おき朝ごはん」全国協議会会員です。

実践方法

「うちどく」のやり方に特に決まりはありません。基本は“読んだ本について家族で話す”ということだけです。それぞれの家庭の事情にあわせて、習慣的に本をめぐる会話を楽しむ。同じ本を読めば会話がいつそう盛り上がります。決まりはありませんが、推進の指針として参考にしていただきたいのが、子どもたちが考えてくれたうちどくの約束です。

子どもたちが考えたうちどくの約束

- ① 家族で同じ本を読もう！
- ② 読んだ本で話そう！
- ③ 感想ノートをつくろう！
- ④ 自分のペースで読もう！
- ⑤ 家庭文庫をつくろう！

取り組み事例

☆印は 2011 年 3 月改訂時新規追加

■北海道湧別町（推進開始：2010 年 10 月） ☆

読書記録用のノートを配布

2010 年 10 月、湧別町湧別図書館にて「うちどくコーナー」を設置し、本を入れ替えながら展開。2011 年 1 月、推進の一環として読書記録用の「どくしょノート」を同図書館で作成し配布。

■青森県板柳町（推進開始：2007 年 8 月）

「毎月 30 日はノーテレビ・ノーゲーム・家読デー」

2007 年 8 月、青森県板柳町「第 22 回町民のつどい・うちどくのススメ」開催。毎月 30 日を「ノーテレビ・ノーゲームデー」とする。

2008 年 5 月「いたやなぎ 読む読むフェスティバル」開催。「読書のまち」を宣言。「ノーテレビ・ノーゲーム」に「家読」を加え、「毎月 30 日はノーテレビ・ノーゲーム・家読デー」として町の広報誌に毎月掲載している。

*2008.3.23 読売新聞広告特集「家族で本の話しようよ！」 青森県板柳町の子ども会議を紹介

■青森県野辺地町（推進開始：2008 年 3 月） ☆

「毎月 20 日は家族ふれあい読書デー」

2008 年 3 月、「野辺地町子ども読書活動推進計画」を策定し、家庭での読書を啓発。2009 年 7 月、「家族ふれあい読書デー」を制定。2010 年 2 月「家読（うちどく）」講演会開催。

2010 年度、国民読書年記念事業として家読の推進をテーマに事業を展開。

- ① 家読標語コンクール（小学生と一般を対象とした標語コンクール作品の募集と表彰）
- ② 家読でスタンプライブラリー（家族で 20 冊の本を読んで家読ノートにコメントを書くと抽選で図書カードを進呈）
- ③ 家読におすすめの本 300 冊～家族ふれ愛読書リスト～（学校、保育園・幼稚園、読み聞かせグループ、図書館によるおすすめ図書リストの発行）
- ④ 家読におすすめの本のコーナーを野辺地町立図書館に設置（おすすめの本リストで紹介している 300 冊の本を集めたコーナーの設置）
- ⑤ 「ふれあい教育の日」フェスティバル（家読をテーマとした講演とミニおはなし会の開催）

2011 年度は 5 月より「親子ふれ愛読書・親子の絆を深めるブックスタート事業」を開催予定。

■岩手県雫石町（推進開始：2008 年 4 月）

「家庭読書 20 分運動」を提唱

雫石町教育振興運動の一環として、〈読書大好き雫石っ子〉を合言葉に読書推進に取り組んで 2 年目、家庭での読書を啓発。2008 年度は、以下の 4 項目に取り組み。

- ・ 父母も巻き込んでの読み聞かせお話を実施する。
- ・ 「我が家のおすすめの一冊」を紹介する読書カードを親子で作成する。
- ・ 「第2回雫石町親子読書のつどい」を開催する。
- ・ 「家庭読書20分運動」（家読）を啓発する。

家読の4原則を提起し、小学校単位に組織された実践区で具体的に実践。

- (1) 家の人みんなで読書（少なくとも2人以上）
- (2) 好きな本を読む（新聞・雑誌も可、但しマンガはダメ）
- (3) 20分間、テレビなどを消して読む
- (4) その時間中、本は取り替えない

■茨城県大子町（推進開始：2007年4月）

「読書のまち」宣言で心の豊かさを育てる町づくり

2007年4月、大子町うちどく（家読）推進事業開始。町内の小・中学校各1校をうちどく（家読）推進指定校として実践開始。

2007年6月「読書のまち」を宣言。9月文部科学省「『読む・調べる』習慣の確立に向けた実践研究事業」の推進自治体として2ヵ年の指定を受ける。10月大子町「子ども読書の街」推進委員会を組織し各事業の推進をスタート。「家読（うちどく）」など読書を通じて心の豊かさを育てる町づくりにより第1回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」受賞。

推進ツールとして、「うちどく（家読）Q&A集」を作成。また、学校において、読書講演会（児童と保護者が各家庭の「うちどく（家読）体験」を発表）やパネルディスカッションの開催、普及推進係の構築（図書館整備、PTAによる「うちどく（家読）推進組織の構築）、読み聞かせ講座の開催などで推進を図っている。さらに、「うちどく（家読）通信」を発行し保護者の意識高揚にも務めている。

*2006.12.20 読売新聞広告特集「家ではボクたちが先生さ。」 茨城県大子町の子ども会議を紹介

*2010.10.27 朝日新聞広告特集「家族で読書、地域で読書 『うちどく（家読）』で広がるコミュニケーション」 茨城県大子町の取り組みを紹介

■茨城県牛久市・牛久市立中央図書館（推進開始：2009年11月）

「としょかんまつり」でうちどくイベント開催

2009年11月、としょかんまつり特別企画「キューちゃんファミリーうちどく開始!!」を開催し、子どもや保護者にアピール。2010年4月には、実践している家庭にわが家のうちどくを紹介してもらう「うちどく体験発表会」と「うちどく講演会」を開催。また、「うちどく用紙」を館内および市内小学校全児童と中学校の一部生徒に配布。「うちどく用紙」を図書館に持参するとルーズリーフ状の「うちどくノート」をプレゼントする。さらに、「うちどくへおすすめする本のリスト」を配布用として作成、あわせて館内にコーナーを設けている。他にも「うちどくについて」「わが家のうちどく」を館内に提示するなどして、利用者に呼びかけている。

※ キューちゃん：牛久市のマスコット

■愛知県知多郡美浜町・美浜町図書館（推進開始：2008年8月）

「うちどく情報BOX」で情報収集

2008年8月、家読講座開催。チラシ「『家読（うちどく）』しましょ!!」を図書館内に掲示して呼びかけ。「うちどくぶっくガイド」を作成し、「うちどく」に適した本、及びうちどく実践例を紹介。また「うちどく情報BOX」を館内に設置し、利用者から情報収集し、集まった情報は「うちどくぶっくガイド」で紹介している。

■岐阜県可児市（推進開始：2007年12月）

「うちどく（家読）^{テン}10」を推進

2006年3月に策定した可児市子どもの読書活動推進計画をより具体的に実効性のあるものにするために、2007年12月に「可児市子どもの読書活動推進計画アクションプラン」を策定。

「より多く読む」「よりよく読む」の2点から抽出された重点プロジェクトの目玉として「うちどく（家読）10」を推進。「10（テン）」の意味や目標を家族で話し合っ決めてもらおうと、下記を参考に示している。

- ・1ヶ月に家族合わせて10冊の本を読もう！
- ・1年間に一人10冊以上の本を読もう！
- ・毎日、家族みんなで10分間本を読もう！

2008年8月には図書館の児童コーナーに、幼児から小学生向けの絵本約50冊と小・中学生向けの読み物約70冊の本を並べた「うちどく（家読）10コーナー」を設置。

*2009.10.27 朝日新聞広告特集「読書で家族のコミュニケーション」 可児市在住の家族を紹介

■岐阜県可児郡御嵩町・御嵩町立伏見小学校PTA（推進開始：2009年4月）

PTA活動で「うちどく」を積極推進

2009年度PTAスローガンとして「～子どもたちの輝く未来のために～家読で深める家族の絆」を設定。

- (1) 家庭教育学級を家読推進の柱とする
- (2) 親子奉仕作業で図書館の充実を図る
- (3) 親子活動に家読の内容を盛り込む
- (4) PTA広報誌にて家読を特集。

以上の家読推進計画に基づき、「家読講演会」や「お父さんの読み聞かせ」「読書に親しむ会」など、積極的にPTA活動を展開。夏休み・冬休みを利用して行う「一家庭一実践」の題材に「うちどく」を選ぶ家庭が増え、読書量の増加、本を通じた家族のコミュニケーション増といった成果を挙げている。2009年11月可児郡PTA研究大会にて家読の取り組みについて発表。

*2009.10.27 朝日新聞広告特集「読書で家族のコミュニケーション」 岐阜県御嵩町在住の家族を紹介

■大阪府東大阪市（推進開始：2010年4月）☆

「朝の読書」に加え家庭での読書活動を推進

読書活動の取り組みとして、全小中学校で「一斉読書」に取り組んでおり、2010年が国民読書年であることをふまえて各学校に一層の読書活動の推進を啓発。各学校においては、図書館担当を中心として異学年交流もかねた本の紹介活動や地域ボランティアを活用した読み聞かせ活動など様々な取り組みをしている。また、東大阪市の教育活動について市民・保護者に周知し協働することを目的とした「東大阪市教育フォーラム」にて、“「朝読（あさどく）」から「家読（うちどく）」へ”と銘打ち、小中学校で取り組まれている「朝読」に加えて「うちどく」ホームページを紹介し、家庭での読書活動の普及にも努めている。

■和歌山県和歌山市（推進開始：2011年1月）☆

そのうち「徳」するうちどく

平成22年度「子育て創生事業」の一環として「そのうち『徳』するうちどく」をスローガンに推進。2011年1月、読書環境整備のため、うちどく用図書を購入し、市立の幼稚園13園、小学校52校、中学校18校、保育所24所、児童館8館に配布。また、子どもたちが保護者や友だちと読書の思い出を記録・共有できるように、幼児用、小学校低学年・中学年用に「うちどくノート」を、小学校高学年用と中学校用には「共読（ともどく）ノート」を配布。さらに、2011年2月より「うちどく」講演会や和歌山大学との連携によるサテライト事業「うちどく講座」などを開催し、読書の重要性を理解しながら、親子で読書活動をすすめ、ともに育ちあう親子関係を築くことを目指している。

■高知県須崎市・日本で一番子どもたちが本を読むまちをつくる会

子どもたちが好きなだけ本を読める環境づくり

2005年5月に市民有志により「日本で一番子どもたちが本を読むまちをつくる会」発足。2006年1月行政や学校の代表が加わり本格的な活動を開始。募金で購入した本を須崎市の小中学校、幼稚園に毎年寄贈し、子どもたちが休み時間や放課後にいつでも好きなだけ本を読める環境づくりを進めている。この活動を広げ、子どもたちが本を家に持ち帰り、家族で読む「うちどくの輪」が家庭に広がるよう活動を続ける。

■福岡県小郡市・小郡市立図書館（推進開始：2009年12月）

市民啓発のための講演会開催

市長公約（マニフェスト）の中の「読書のまちづくり日本一」に向けて子どもと本との出会いを支える取り組みを行っており、「ブックスタート」「朝の読書」に加えて2009年度から「家読」の推進をスタート。2009年10月、第1回家読サミット in 伊万里に参加。「広報おごおり」（12月1日号）で「うちどく」について掲載し、12月から2010年3月にかけて6カ所（地区）で家読講演会を開催。市民の啓発を行なっている。

■佐賀県伊万里市（推進開始：2007年6月）

「うちどく」でつくる思いやりの心あふれるまちづくり

2007年5月、伊万里市長が「うちどく」市民運動宣言。同年6月、「うちどく」でつくる思いやりの心あふれるまちづくりの推進を開始し、黒川町をモデル地域に指定。毎月1日を「家読の日」として、ノーテレビデーと組み合わせるなどして家読の時間を持つことをすすめている。2008年度はモデル地区を大川内町・山代町・松浦町に拡大し、講演会や家読フェスティバルを実施するなど、普及を図っている。2009年度からは市全域に拡大して推進。2008年10月、従来からの読書活動に加え、「家読（うちどく）のすすめ」の提唱など、さまざまな普及啓発活動により第2回高橋松之助記念「文字・活字文化推進大賞」受賞。

*2007.10.27 朝日新聞広告特集「家でも本の話をしようよ！」 伊万里市の子ども会議を紹介

◎ 第2回 家読（うちどく）サミット in 大子

家読（うちどく）に取り組んでいる佐賀県伊万里市、青森県板柳町、茨城県大子町の3市町により、家読の情報交換をするとともにそれぞれの市町の成果を情報発信し、全国的な家読運動の推進を図ることを目的として、2009年の伊万里市に続き、2010年10月16日に大子町文化福祉会館「まいん」において「第2回家読サミット in 大子」が開催され、大子町の綿引久男町長、板柳町の館岡一郎町長、伊万里市の塚部芳和市長が家読（うちどく）推進の共同宣言を行った。

「第2回 家読サミットin大子」共同宣言

昨年に続き、自治体を挙げて「家読」に取り組んでいる佐賀県伊万里市、青森県板柳町、茨城県大子町の3首長が、風光明媚な奥久慈の地、大子町に集い「第2回家読サミットin大子」を開催いたしました。

子ども時代の読書は生涯学習のスタートであり、多くの知恵を養うと共に、豊かな想像力や感性を育みます。また、子どもは、家庭内に醸成された気風を吸収しながら成長します。したがって、子どもにとって大切なものは、読書と家族の愛情と心の絆です。

「家読」こそは、それらを実践するための大切な方法のひとつであると考えます。また、本を読むことによって習得できる言語能力と知的所産は、やがて地域のまちづくりや国の発展にもつながるものと確信いたします。

「第2回家読サミットin大子」に参加した自治体が、さらに連携を密にし、それぞれの成果を情報発信していくことによって、「家読」が全国へ広がり、多くの子どもたちや家族が、心を通わせ幸せに過ごせるようになることを願い、次のとおり宣言いたします。

1. 子どもが本を読み、心の中に想像の翼を広げ、知的エネルギーを蓄え、未来へ向かって羽ばたくように努めます。
2. 家族が本に親しみ、語り合い、コミュニケーションの輪を広げ、親子の絆が深まるように努めます。
3. 自治体が読書環境を整え、本に触れる機会を増やすなど、「家読」を推進し、住民が本に親しむ心豊かなまちづくりに努めます。

平成22年10月16日

佐賀県伊万里市長 塚部芳和
青森県板柳町長 館岡一郎
茨城県大子町長 綿引久男

ロゴ使用のすすめ

ロゴマークは、うちどくの趣旨に賛同いただき、コンセプトに沿った取り組みであれば促進ツールやパンフレットなどに原則として自由にお使いいただけます。

ご利用いただけるのは、シンボルマーク (A) と子どもたちが考えたうちどく(家読)の約束 (B) です。お気軽にお問い合わせください。



(A)



(B)

うちどくツールのご紹介

●リーフレット

うちどくをすすめる読者向けリーフレットです。ご希望の際はお問い合わせください。A6判・二つ折り。(数に限りがありますので、ご希望に添えない場合はご了承ください)



●実践ツール

うちどくがより楽しくなるツールをご用意しています。ホームページからダウンロードしてご利用ください。

[うちどくノート]

家族で共有する読書ノートです。家族の読書の記録として、また成長の記録として残すことができます。



[うちどくブックガイド]

うちどくにおすすめの本を紹介した小冊子です。こどもたちのおすすめや出版社のおすすめなど、いろいろな切り口で紹介しています。



*朝の読書の現状
 学校での朝の読書は現在26,900校を超える小中高校で実践されています。児童生徒数にして実に970万人にのぼります。(2011年3月現在、朝の読書推進協議会調べ)

■うちどくホームページ

http://www1.e-hon.ne.jp/content/uchidoku_top.html または「うちどく」で検索

■お問い合わせ先

株式会社トーハン 広報室 TEL03-3266-9587/Fax03-3235-1337 | <http://www.tohan.jp>